

＝第4回総会＝ 事業報告や計画を承認

新たに「展示企画委員会」発足

後半にはミニ講演会や“ライブラリーカフェ”

4月23日(土)午後、葛飾図書館友の会の第4回総会が中央図書館で開かれました。総会には役員を含め約40名が出席。朝野友の会会長及び梅田中央図書館長の挨拶を受けた後、議長を選出し、議事に入りました。平成22年度の事業及び会計報告、監査報告や平成23年度の事業計画及び予算案が1時間で、すべて原案通り拍手で承認されました。昨年度まで活動してきた地域・地区図書館応援チームは総務委員会を窓口として、その役割を終了すること、中央図書館の展示スペースを利用した展示を応援・協力したり、企画を行う「展示企画委員会」を新設することなどを決定しました。総会の後半は川島イベント委員長の『葛飾区の愛し方』と題する30分のミニ講演会、そして交流を深め、楽しい総会にしようとの初の試みとして“ライブラリーカフェ”が開店。『漫画で書かれた専門書をどう考えるか』『私の好きな戦国武将』『図書館何でも大クイズ』『絵本の魅力を語ろう』『私は友の会にこれを期待し、図書館でこんなボランティアをしたい』の各コーナーで図書館友の会担当の職員の方々にも参加していただき、コーヒーを飲みながら約1時間語り合いました。午後5時の閉館を告げるアナウンスとともに総会は終了、4年目の友の会活動がはじまりました。



“被災地の子どもに金町から元気を届けたい”

あきやまだしさんが『チャリティー絵本ライブ』

大震災復興支援イベントに“満員御礼”



4月10日(日)午後、東日本大震災復興支援イベント『あきやまだしさんチャリティー絵本ライブ』が友の会と葛飾学校図書館ボランティア連絡会の共催、葛飾区立図書館の協力で開かれました。

既に開会前には会場は幼児や親子で満員、“立ち見”も発生。東金町在住でTVアニメの『はなかつぱんくろろ』、『まめうし』シリーズで人気の絵本作家の氏は“被災地の子どもに金町から元気を”と呼びかけ、急遽開かれたイベントです。

演壇の前はゴザが敷かれ、子どもたちが埋め尽くし、氏は出版した絵本を手に、数冊を次から次へと読み語りしました。またギターを弾き

ながら、そして汗をかきながらのユーモアあふれる言葉遊びや歌に明るい笑いとお声援そして手拍子がわき起こり、会場は熱気に包まれました。1時間はあっという間に終了。その後は自筆のイラストが配られ、子どもたちは満足しきった様子で会場をあとに、一方、サイン会には持参してきた絵本を手に手に、長蛇の列。参加者からは12万円を超える募金があり、日本赤十字社に全額寄付されるとのこと。氏は「今後もこのようなイベントを通して、息長く支援を続けて行きたい」と語っていました。開館以来、最多の参加者を記録したかと思われるイベントは大成功のうちに終了しました。なおこの模様はかつしかケーブルテレビのニュースで放映されました。



広告は時代の索引！

～ アド・ミュージアム東京 & 広告図書館(中央区汐留)見学会 ～

広告制作の裏話に「へえー！」「なるほど！」



あの時はどちらに？ ご親類、お知り合いに被害は？……そんな会話がごく自然に交わされ、テレビCMで繰り返し流された『こだまでしょうか』（金子みすゞ）を子どもたちがたちまちそらんじていた3月26日。

イベント委員会主催の見学会に、安全面の点検を済ませて早期に運営を再開していたミュージアムのスタッフのみなさんが10名の参加者をあたたかく迎えてくださり、広告制作にも携わっていた学芸員の内田さんのガイドで見学開始。江戸時代から現代に至る広告のあゆみを体感できるミュージアムの展示、書籍・雑誌はもとより画像・映像データの収集・公開機能まで充実が図られている広告

図書館を案内していただく。内田さんによるポイント解説や広告制作の裏話に「へえー！」「なるほど！」の声飛び交ううち、予定の90分はあっという間に過ぎていった。

「永遠に未完成」のミュージアム

「流行歌は時代の索引」と言ったのは井上ひさしだが（『阿久悠のいた時代』所収「また逢う日まで」、柏書房、2007）、広告こそ“時代の索引”と呼ぶによりふさわしいのではと実感した見学会。電子メディアも加わり、日々さまざまな形で生み出されていく広告を収集・保存・公開対象にしている以上「永遠に未完成」（内田さん）という当ミュージアムの役割は今後ますます大きい。

あまりにも身近すぎて日頃意識されることが少なかった広告のあり方や影響力に大震災をきっかけに思わぬ注目が集まる中、蔓延していた自粛ムードを横目に見学会を実施した意味合いは十分すぎるほどあったといえよう。

当日参加されなかった方々にもぜひお薦めのアド・ミュージアム東京と広告図書館は、交通便利な「カレッタ汐留」内（入場無料）。開館時間等についてはホームページ（<http://www.admt.jp/>）か電話（03-6218-2500）で確認を。

広報委員会制作『葛飾図書館友の会のあゆみ』展を開催

今までの活動の経過とイベントなどを一挙に資料展示

2008年6月に設立された「友の会」は中央図書館開館時の「友の会フェア」を初め、会議室やかつかしコーナーを利用しこれまで中央図書館を中心に様々な活動やイベントを行ってきました。4月の第4回の総会開催に合わせ、広報委員会は「友の会」を知っていただき、会員数の増大を目指す『葛飾図書館友の会のあゆみ』展を開催しました。

準備会発足から現在までの『友の会』の略年表や各種委員会の活動内容、ナイトシアターのラインナップ、「キーワード読書会」参加者の選定本の一覧表示、既にこれまで発行された11号までの『友の会通信』のカラー原簿や毎月会員に葉書で送られる「たんしん」などを3月末から5月上旬までの1ヶ月余を中央図書館の展示コーナーに掲示しました。又これまで訪問し、「友の会通信」で報告してきた区内の図書館から提供を得て、それぞれの最新発行物も同時に提示しました。



友の会会員で翻訳家の大作道子さんを迎え

『ハンター』の著者や翻訳の裏話を聞く

— 「児童・YA読書会」がスタート —



3月6日(日)午後、児童・YAサービス応援委員会が主催する第1回目の読書会が中央図書館で開催されました。友の会会員で金町在住の翻訳家の大作道子さんを囲んで、彼女の翻訳書『ハンター』(ジョイ・カウリー作 偕成社)をテーマにした読書会。この本は見えないはずのものを見通せる「内なる目」という特別な能力を持ったマオリの奴隷少年を主人公にした200年の時空を超えた物語。

大作さんはニュージーランドに興味を持ち、10ヶ月滞在。帰国後に英会話講師をしながら通信講座で翻訳の勉強をし、2002年にこの本に出会い、その魅力にひかれて翻訳を開始。この“ファンタジー”小説の題材となったニュージーランドの現地を訪れたり、女流著者と直接会ったり・・・などの裏話を静かに、そして常に笑顔で語ってくれました。若い愛読者やもとも若い(?)参加者などからの様々な質問もあり、応援委員会は今後も小学生高学年以上、中高生を対象として読書会を開催していくとのことです。

奥戸地区図書館のオープン記念イベント

絵本作家飯野和好氏の講演会に“協力”

週末には駐輪場整理や配架作業にも

4月2日(土)午後、新しく奥戸地区図書館が南奥戸小学校の一角にオープンしました。友の会は翌日の開館記念イベントで『ねぎぼうすのあさたろう』や『くろすみ小太郎旅日記』、『おならのうた』など、独特のタッチで人気の絵本作家飯野和好氏による“おっと、痛快絵本読み語りの旅でい! 奥戸の宿”の開催に協力しました。会場は同校体育館、会員は駐輪場の整理や会場への誘導にあたりました。

また延べ8名の会員が4月中旬までの土・日に図書館来館者の駐輪整理や館内案内のパンフレット配布、返却本の配架作業、書籍の分類・整理などの協力もしました。



展示コーナー『初夏は自転車に乗って!』を6月上旬まで開催

中央図書館かつしかコーナーの企画特集展示【第4回】 5月下旬まで展示予定

初夏は自転車に乗って!

心地よ(ペダルを踏める季節となりました!)

※迎った書と乗り場文しやすい管断回は多くの人が日常的に自転車を利用する「自転車使用」。

エコで健康的な生活には、先の大震災時には防災交通が止まりがけりて入手困難とある中、緊急時でも確かな自転車の移動が重要となります。

原書や資料一般書まで、自転車の歴史やサイクリングの楽しみ方、ロードバイクやクロスバイク、自転車やバイクの修理やメンテナンス、自転車の安全運転など、さまざまな分野の書籍を展示。

暑い夏を元気に迎える自転車やロードバイクを主とした行先や、時に立ち止まることのできる自転車旅行は、どこか旅情という行旅に彩られています。

どろりとした感じの自転車やロードバイクがおすすめです。

「自転車の泥棒」
1948年アムステルダムオリンピックの盗難事件を扱った小説。盗難事件の真相を探る。5/14(土)上映!

会場: 中央図書館 寄贈室
開場: 17時30分 (入場無料)
17時45分: 17時45分~18時15分 (イベント準備中 閉館)
上映: 18時~19時25分予定

共催: 葛飾区立中央図書館 葛飾区立中央図書館 友の会 イベント企画委員会

協力: 葛飾区立中央図書館 葛飾区立中央図書館 葛飾区立中央図書館 友の会 イベント企画委員会

共同主催: 葛飾区立中央図書館 友の会 イベント企画委員会

TEL: 03-3607-9201

イベント委員会は緊急時やエコライフにぴったりの手段を見直す機会に中央図書館の展示コーナーを利用して特集展示を行いました。

今回で第4回の企画は『初夏は自転車に乗って!』をテーマに児童書から一般書まで、自転車に関する図書館所蔵資料や友の会会員が選んだ書籍を6月上旬まで展示。日常的に自転車を利用する“自転車都市”である葛飾区。エコで健康的、かつ緊急時に頼りになるその役割が昨今見直されています。(財)日本自転車普及協会の資料提供も受け、自転車の歴史やサイクリングの楽しみ方、自転車が活躍する文芸作品などを並べました。5月のナイトシアターでは「自転車泥棒」を上映。

また6月には同コーナーで『あの名文・名言はこの本の中に!』と題する特集展示を予定しています。中央図書館にご来館の際には是非、お立ち寄り下さい。

心にのこる私の一冊 ⑧ 絵本『おちやのじかんにきたとら』

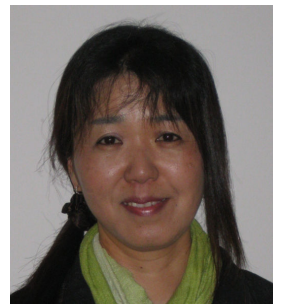
ジュディス・カー 作／晴海耕平 訳(童話館出版)

齊藤 美代

これは、おとなにとっては、とても不可解で理不尽で、納得が出来ないストーリーかもしれません。

お茶の時間に突然の来客、しかもお腹がすいたトラ！ トラは、自分もお茶をご馳走になろうと思ってやってきました。トラは、とても礼儀正しくおだやかで紳士的な雰囲気や漂わせながら、少女ソフィーの家の食べ物や飲み物、水の一滴まで食べ飲み尽くす、という「おおきなふるまい」をします。そんな異常事態が起こっているのに、ソフィーとお母さんは静かに、トラがお腹がいっぱいになるまで見守り、きちんとお礼を言って帰るトラを見送ります。夜、お父さんが、帰って来てふたりから今日の様子を聞き、夕食に食べるものも無くなってしまったことがわかったと、「レストランに行こう！」と素敵な提案をして、家族で楽しい時間を過ごします。その上、翌日の買い物では、今度またトラがいつ来てもいいように、「タイガーフード」まで買い揃える、この懐の広さ！ この家族の、経済的な裕福さだけではない、精神的な「豊かさ」や「品格」に、絵本を開くたび、心からほれぼれと憧れてしまいます。そして、行いとしては「傍若無人」なトラですが、アンバランスな礼儀正しさと キュートな笑顔に、ソフィーとお母さんへの篤い信頼感が感じられ、いっそ清々しさを感じるほどです。このお話を聞いた子どもたちで、トラを「ワルモノ」と感じる子はほとんどいません。逆に「うちにもこんなトラが来たら…」とワクワクさせられるくらい、魅力を感じるようです。ストーリーに「恩返し」のような因果応報の発想がないので、たぶんそこが、おとなには納得しがたいのですが…。

この度の大きな災害で、津波で全てを失った漁師の方が「それでも海が好きだ、海はかわいいんだ」と語ったことばが印象的で、ふと、この絵本を思い出しました。彼にとって津波は「トラ」だったのでしょうか…？ 現実の中で「赦し」という崇高な精神を垣間見たようで、自分の気持ちを言い表すことばを失い、ただただ 心をこめて祈るのみ でした。区内図書館に蔵書がありますので、是非お手にとってご覧くださいね。



(さいとう・みよ 児童・YAサービス応援委員長)

「葛飾図書館友の会」で一緒に活動しませんか！

『友の会』は多くの会員によって活動しています。図書館を利用されている方、活動趣旨に賛同される方々、是非ご入会いただいて、あなたの図書館に関わるいろいろなアイデアを少しずつ実現してみませんか？

毎月第3土曜日の午後1時から4時まで中央図書館内で、また従来通り友の会開催イベント時に直接の入会受付を行っていますので、是非ご利用ください。年会費は一般会員は1,000円、賛助会員は1口2,000円です。上記の方法が利用できない場合、入会希望者は中央図書館に入会届をご提出の上、年会費を下記の口座に納入してください。図書館での年会費の直接納入はできません。「通信欄」に一般あるいは賛助会員かを明記の上、23年度年会費をご記入下さい。振替手数料は銀行窓口では120円、ATMからでは80円です。恐れ入りますが、ご負担をお願いいたします。

ゆうちょ銀行	口座番号	00100-7-392065
	口座名称	葛飾図書館友の会

●問い合わせ先 中央図書館友の会担当者(打越さん、吉村さん、清水さん、白井さん) Tel 03-3607-9201

色せんびつ

三月十一日は近くの学校で卒業式があるため、PTA顧問の私は家で出席の予定時間を待っていた。突然の大きな揺れで、なぜか仏壇の中の供物と写真が飛び出すのを見ながら読みかけの本とバックを持ち庭側の戸を開けて押さえていた、と思う▼2度目の余震で慌ててテレビをつけると、各地での被害と震源地からの大津波の映像：東日本大震災である。これは本の中と違う現実だと、眩し泣きながらパニック状態となった私は式に出ることもなく、先に痛めた足が腫れたまま体調を崩し、ギブスをつけたりとつらい毎日を通り過ぎ▼痛みで、家事の他には何も出来ない何も考えられないので、古い絵本や短編の本を常にそばに置いて、見たり読んだりしていたおかげで心も体も落ち着いて。それでもまだ震災後も大変な日々を送っている人達を思い、原発事故に不安を抱く親戚や友人のことを思うと胸が痛み涙が出る▼最近、テレビから流れる言葉も気になって話し合うが、いろいろな考えがあり事情もあつて素直でない人もいと聞く。世の中、決してそんな人ばかりでないと思う。せめて本を愛し読書を趣とする人は皆、優しく素直なところを持つことを願う。

【こころは、誰にも見えないけれど心遣いは見える。思いは、見えないけれど思いやりは誰にも見える】

(栗竹広報委員)